

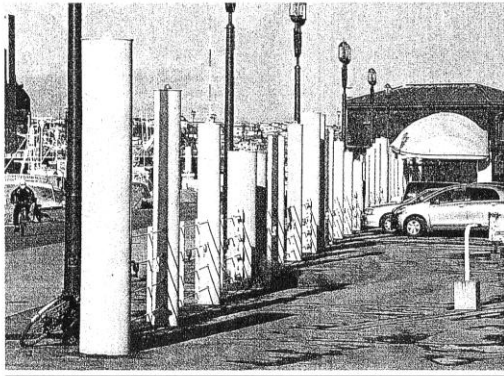
津波対策 設備頼り限界

防波堤10メートルで大破 漁船衝突し建物破壊

高層避難施設どう確保

備えはあるか

東日本大震災の教訓



川路フィッシャーメン
ワークスM.O.O.の対岸
に設置された津波スク
リーン。500年周期の地
震にどこまで効果を発
揮できるかは不透明だ
＝釧路市入舟

浜中湾と琵琶瀬湾に挟まれた浜中町霧多布市街地を訪れると、街を取り囲むように海岸線に連なる高さ約5・3メートルの防潮堤が目に入ってくる。今回の東日本大震災ではこの防潮堤の有無が明暗を分けた。

浜中町内では堤外の漁協施設や水産加工場が大きな被害に遭ったが、堤内では堤の改良箇所から入り込んだ海

は津波と満ち潮で最大4・5メートルの水位上昇が観測されたが、防潮堤が押しとどめた形だ。だが、同様に高さ4メートルの防潮堤を備える根室市花咲港では92年の完成以来初めて津波が堤内に入り、防潮堤の一部大破する被害を受けた。浜中町でも500年周期の大地震の際には霧多布市街地に8・3メートルの津波が押し寄せ、町内全体で最大50人前後の死者が出ると予測されており、一時は「防潮堤をかき上げすべきた」との声が出たこともある。

ただ、今回の大震災では津波と満ち潮で最大4・5メートルの水位上昇が観測されたが、防潮堤が押しとどめた形だ。だが、同様に高さ4メートルの防潮堤を備える根室市花咲港では92年の完成以来初めて津波が堤内に入り、防潮堤の一部大破する被害を受けた。浜中町でも500年周期の大地震の際には霧多布市街地に8・3メートルの津波が押し寄せ、町内全体で最大50人前後の死者が出ると予測されており、一時は「防潮堤をかき上げすべきた」との声が出たこともある。

ただ、今回の大震災では津波と満ち潮で最大4・5メートルの水位上昇が観測されたが、防潮堤が押しとどめた形だ。だが、同様に高さ4メートルの防潮堤を備える根室市花咲港では92年の完成以来初めて津波が堤内に入り、防潮堤の一部大破する被害を受けた。浜中町でも500年周期の大地震の際には霧多布市街地に8・3メートルの津波が押し寄せ、町内全体で最大50人前後の死者が出ると予測されており、一時は「防潮堤をかき上げすべきた」との声が出たこともある。

では世界有数規模の岩手県釜石市・釜石港の防潮堤が10メートル以上の津波で大破。津波高や浸水域の低減効果は認められたが、市街地は甚大な被害を免れず、市内全体で約1300人の死者・行方不明者を出している。

このため、浜中町の上田幸作総務課長は「どこまで高くすればいいのか想定できない。釜石の被害を見たら防潮堤も万端ではないことは明らかだ。防潮堤に頼るよりは早く高いところに逃げる」と強調する。防潮堤のかき上げも基礎部分から整備し直すことが必要だ。費用面から現実的ではないという。

東北全域の被災地を調査した早大の柴山知也教授（海岸工学）は「防潮堤などハードに頼ると、それを破れた時に被害は一気に拡大する。生き残る手だてとして避難の態勢を整える方が現実的だ」と指摘。想定を超える津波にも対応できるような「6階建てくらいの高さの物見やぐらのような避難（専用）ビル」の建設を検討すべきだ」と助言する。

一方、被災した宮城県気仙沼市では津波に流された大型漁船が市街地に入り、建物被害を拡大した。04年の

インド洋大津波でも同様の被害が確認されており、釧路開港は07年、全国で初めて漁船の進入や車の漂流を防ぐ防護柵「津波スクリーン」（高さ2・3メートル、延長137メートル）を釧路川河口の岸壁に設置した。

ただ、あくまでモデル的な設備で、強度も最大5メートルの小型漁船の衝突に耐えられる程度。高さも強度も500年周期の地震までは想定していない。釧路市防災担当者は大震災を踏まえた課題洗い出しの中で防護柵延長の検討も出てくる可能性があるとするが、東北の津波被害はハードの防災設備にどこまで頼るべきか、国や自治体に問いかけている。

（今川勝照）